

■日時：2021年1月31日（日）13:00～15:00

■場所：環境配慮住宅型研修施設（環境楽習館・雨デモ風デモハウス）

■出席（敬称略）

- ・会場：小山、藤崎、杉本、小谷
- ・オンライン：内田、高坂、林、佐野

※開始時の参加者。その他、途中参加された方がいらした可能性もあります

■資料：「持続・発展が可能な市民会議」 新生「小金井市環境市民会議21」に向けて

■議事

1. 議案（小谷より説明。詳細は別添資料参照）

- （1）市民会議の目的・位置づけについて
- （2）市民会議再生の視点・主な取り組みについて
- （3）メールマガジンの導入について

---

（1）市民会議の目的・位置づけについて

＜議題・提案の趣旨＞

環境基本条例と市民会議規約における活動についての主な課題と強化策の必要性についてとりあげた。

- ・条例における「市長に意見を述べるができる」については回答に至るまでの手続きが規定されていないためにその結果が見えにくい。手続き規定が必要（意見を出しっぱなしで終わることへの危惧。陳情の方が明確であったりする）
- ・市民会議の構成について、市民以外の（事業者、教育機関、市職員への）広がりがないこと
- ・市の市民会議への活動支援が十分ではないこと

＜意見交換＞

- ・位置付けの市との関係についての議論は大事ではあるが、順序としては、市に改善を求めるよりも、市民会議自身の足元を固めてから、市民会議はこういうことをするからこうして欲しいと最後に言うことではないか？ 現状の市民会議会員個々がどのように考えているのか把握することが必要。現在、40名からなる会員が市民会議についてどうしたいと思っているのか、詳しく知りたい。これまでに参加の呼びかけをしてもなかなか集まらない、反応がないからわからない。どのようなスタンスで会員になってきているのかわからない。
- アンケートをしても回答者が一部であったり、表面的なものにとどまってしまうことが懸念される。意見を聞くなら個別に意見を伺いたいと考えている。資料に記載してあるように、3月以降に協議を持ち掛けることとして考えている。
- ・参加の仕方はひとそれぞれで、積極的に活動する人もいれば、会費を払って応援という形であることを含めて40人もいることを評価したい。一方で、外部に広げること、活気を取り戻す必要があり、そのための活動に取り組んでいく必要がある。
- ・提案・指摘事項は現在の市民会議の（参加や活用に向けた）魅力を高めるために重要なこと

ではないか。

- ・条例にうたわれている市の支援は十分ではない。
  - ・「環境活動のコーディネーターについて」は、新しい環境基本計画から市民会議の役割からは除外されているがそれでも行うのか。
- 市民会議だけで問題解決に導くことは簡単ではないが、第2部で話題としてとりあげる崖線の都市計画道路などもそうだが、市民の声を吸い上げるプラットフォームとしての役割は（環境基本計画の位置づけの有無に関わらず）必要ではないか。

## (2) 持続・発展が可能な市民会議のために必要な市民会議再生の視点・主な取り組みについて ＜議題・提案の趣旨＞

(重点事項として7項目を提示)

1. (従来より市民会議の課題認識として言われている) 参加者の減少、高齢化 対策に対して  
→ 「世代の循環」を起こす事業・活動に取り組むことにより持続可能な市民会議とする  
(各世代ごとに役割意識をもった活動を取りあげる)
2. 活動・情報のプラットフォームの強化
  - ・多様な主体との連携 (現在の市民会議は住民中心の構成にとどまっている)
  - 企業・団体の参画・連携 (広域連携含む) が必要
3. コーディネート機能：環境保全・活動相談の「駆け込み寺」として重要な受け皿  
(→多様な活動分野、専門家・識者・団体等との連携を図っていく)
4. 提案の尊重と発言の責任  
→提案・要望は、(難しそうであっても) 原則全て受け入れることとしたい。  
但し言いつ放しでなく、如何に実現させるか一定の責任も持ってもらいながら協力して進められるようにしたい。(提案等が受け入れられず、これまでに抜けていたり、不参加になったメンバーの原因でもある)
5. 運営と組織・運営の成り手がいない「運営会」の現状打破「企画運営会」へ：
  - ・最初から「できない」ではなく「発展」意欲を受け入れる (常時)
  - 企画提案しやすい空気づくりとするため、「企画」を強調した運営会体制としたい
6. 運営・手続きの透明性確保：手続きのプロセスを明確にする。規約等反映改正。  
一部に過大・長期の権限持たせない→R3 総会 に諮る  
(例：市民会議推薦の審議会委員選定プロセスは運営会の中だけでクローズドな状況。  
また、選定された委員などは市民会議内に報告して情報共有し、新しい取り組みのために生かしてもらうようにする必要がある)
7. 会としての意見表明の手続きの明確化とフォローアップのしくみづくり
  - ・「市長への意見」はじめ、規約上の決議の手続き規定があいまいな部分が多い。(これまでは、対面で基本的には全員合意もしくは反対なしであれば決定するといった、コアメンバー間でなんとなく進められてきたきらいも感じられる。役員の成り手がいないなかでも明確な手続きを設けることで誰が役員等になっても、物事をまとめられるような仕組みにしていきたい)

## <意見交換>

・再生ミーティングは1～3月の間に月1回の意見交換の場を設けていくこととしているが回数として十分か懸念される。限られた時間でこれだけの項目をすべて議論するのは無理があるのではないか？

・提案は何でも受け入れるというのでよいものか、提案内容について採用するのかわからないのか組織として決定することが必要でないか。

・昨年9月以降、何人かの会員から提案された個別提案事項についても、もっと丁寧な議論を重ねてもらいたい。市民会議としての機関決定が必要。

→趣旨は了解した。しかし、内部で方法としては、一つ一つ内部の議論に多くの時間をかけていっても大きくものごとは進まないことが危惧される。それらを外に向けてのアクションとしてどうしたらいいのか、実際に取り組みを開始し、トライアンドエラー、試行錯誤しながら進めていくというスタンスを重視したい。

※小谷後日注釈・・・その後、いつでもだれでもが個別事項について意見を書き込み積み、議論を重ねていけるよう、「スプレッドシート」(googleの機能でエクセルやワードを共有して書き込めるようにする機能)を用意することで、「会議の場」以外でも議論や中身の詰めができるようにしていくツールの導入を図りたいと思います。

・提案のあったとりくみ事項を受け入れたい。あとは実際に進めていく手順をスケジューリングしてもらえるとよいのではないか。

→ おおまかなスケジュールは作りはじめてあるが、(画面提示)修正すべき点もあるので参考提示にとどめさせていただく。

・「運営会」から「企画運営会」へ

個々の事項について全員で同時に深めるのは大変なため、個々のテーマについて専門に詰めていく「〇〇企画運営会」を立ち上げ、参加メンバーを募ってまとめてもらうとよいのではないか。「メールマガジン」なら「メールマガジン企画運営会」といったように。

→ (呼称はともかく)その方式を取り入れたい。

※ 注釈：小谷提案としての「企画運営会」は現行の「運営会」を移行させることでしたが、参加者から提案いただいたのはこれまでの特定テーマ・目的についての「プロジェクト」に近いものかと思います。

第2部での崖線の都市計画道路問題についても対応していく「企画運営会」を立ち上げてはどうかということになりました。

## (3) メールマガジンの導入について

(詳細は資料参照)

・いろんな活動への参加や連携を創出させる呼び水となるツールとしてメールマガジンの早期導入を提案する。

・現在、部会間の交流、コラボレーションによる相乗効果的な取り組みが図られているようには見受けられない。特に、会員自身にとっても、最近新しくできた部会についてもっと知りたい。

### <意見交換>

- ・どのようなコンテンツをイメージしているのか？例えば、今の市民会議の取り組みである再生ミーティングの議論を載せても関心を引き起こすのか？
  - 市民会議の外に向けての活動、個人会員・団体会員の情報発信のためである。再生ミーティングの内部的な議論を掲載しようというのではない。
- ・メールマガジンを作ったとして、その有効性はどうか？
  - 現在の会員十人づてにふやしていくことにより、数百人の登録はすぐに見込むことができる。令和3年度中に1000件にのぼればかなりの情報交流、そして会員自身が発信したいというモチベーションが高まることが大いに期待される。
- ・部会活動は個々に独立的に活動し、満足しているのではないか
  - 新規に市民会議に部会活動について問合せが来ている。現在会員が少なかったり、休眠している部会もある。部会に独立性が高まりすぎて、部会間の日常的な交流・情報がなく、活動交流や相乗効果を果たすことができていない。市民会議が外に向けて情報発信できるようなツールを設けることにより再活性化させていくには非常に有用なものと考えている
  - 「メールマガジンについての企画運営会」を設けていくこととなった。

### ■今後について

- ・次回の実ミーティングは2/28（日）14:00～とする。

■15時からの第2部では、都市マス策定委員の山本氏から1月開催の第5回委員会の報告と意見提案があった。

- ・市民会議への提案として、以下が掲げられた。

- ① 武蔵野公園のハケの価値をみんなで共有
- ② 「会議として」、市と市議会、都市マス市民策定委、東京都に対して意見表明する
- ③ 都市マスタープランのパブコメ・市民説明会に参加
- ④ 「会員個人」として反対運動に関わっていく

→ 市民会議としても2016年に都に意見書を提出していることから、重要なテーマであり、市民会議でも第1部の話でも出たように、特定テーマについて市民会議の活動として取り組んでいく「（崖線の都市計画道路問題についての）企画運営会」を立ち上げていくか会員に諮っていくこととなった。

（→ その後、小山代表より運営会に打診があり、複数名賛同の意見が上がった）

以上、（小谷作成）